



技術融合で完成した各種成形部品

こだわりの技術で夢を運ぶ 企業でありたい

三洋金属工業 株式会社

事業内容と沿革

職人気質から 顧客重視姿勢の社風へ

精密金属プレス加工およびインサート・射出成形を軸に、試作から量産、単品から組み立てまで一貫した高品質なものづくりで顧客ニーズに応える。昭和47年、下大川洋一社長が金属プレス加工業を創業。起業メンバー3名の結束力を示す“三”と、社長名の“洋”が社名の由来。手作業で石油ストーブやガス器具の部品などを製造する一方で、下請けの業態ながら自社の特徴を生かすためさまざまな分野の仕事に挑戦してきた。そうした中、携帯電話機の充電接点部など小型金属部品の加工技術が評価され、業容の拡大につながった。1990年代末には長男の文晴氏が経営に参画。前職はメガバンクで法人を担当し、事業承継の難しさや重要性を誰よりも認識していた。下大川社長は文晴氏が後を継ぐことに対して、前途有望な職を辞してまで苦勞を強いることを望まなかったが、最終的には変わらぬ信念を受け止め社業の発展を託した。専務となった文晴氏は若手人材の採用と社内環境の改善に着手。入社当時5-6名であった社員数は現在35名になった。職人気質を珍重する社風を顧客重視の姿勢に変革。人との出会いも増え、1桁台だった取引先は70社を超えるようになった。

強み

業態の広がり 新たな市場を創出

「プレス技術を原点とし困難なものづくりに挑戦してきた経験と実績が財産」と下大川専務は語る。例えば15年前、取引先から「中国で15名を要して手がけている仕事を請け負えないか」といった相談を受けた。この課題に自社の機械設備や金型技術を駆使し応えた実績を持つ。陣容やコスト面で不可能と思われたことにあえて取り組み、海外と対抗できる技術の優位性を実証した。このことは経営姿勢を大きくアピールする事例となった。また、金属以外の加工を協力企業に委託する中、樹脂の中に金属部品を組み込むインサート成形部品を受注した。これは樹脂成形とプレス加工技術を融合させて製造する特殊な自動車関連部品だった。そこで平成19年、樹脂成形を担う関連会社「三晴プラスチック(株)」を大阪府門真市内に設立し、各種成形機器を装備し内製化を進めた。その結果、業態の広がりが強みとなり、相乗効果で部品の組み立てや試作加工分野など新たな市場の創出につながり、一貫したものづくりも可能となった。売り上げ構成は全体の70%が金属プレス加工で樹脂成形が30%。取引先も自動車関連に加え、医療や産業機器部品など多方面に拡大中で、チャレンジ精神と提案力をベースに実績を伸ばしている。



困難なモノづくりに挑む自社設備



ニーズを分析し新規事業を模索



設備拡充で受注増に応える新工場



日課となった就業前の社内清掃

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンライン
- 海外対応

カドマイスターの取り組み

常に困難なことに 挑戦する精神力

朝は社内清掃から始まる。就業前7時半には社員全員が揃い、社内をくまなく掃除してから仕事に入る。この流れは下大川専務が就任当初に“あたり前の行動と考え方”を伝える教育の一環として指導。今や慣例となった美化活動も社内規律や連帯感、協調性の醸成に寄与している。来客者や得意先からの評価も高い。一方、仕事は妥協を許さず最後までやり続ける姿勢を基本に据える。物理的に不可能なことが散在する時も、自身の技術や環境をもって可能なことを考えさせる。「限られた時間内でやるかやらないかが重要で、常に困難なことにチャレンジする精神力を培っている」と下大川専務は語る。ISO認証取得に臨み、社内体制を整備。運用や継続の取り組みで社員のスキルや考え方を引き上げてきた。金属プレスに関する技能検定の挑戦を促進し、徹底した技術的サポートで毎年資格取得者を輩出している。品質の高さの証として自動車関連の取引先から“品質賞”を受けた実績もある。

今後の展開

産学連携事案で 新たな事業の柱を構築

三晴プラスチック(株)と共同で新本社・工場の構築を進め、平成28年春には現本社の業務を完全移転する。敷地が約200坪から約830坪へ拡大、設備拡充とともに受注の増加が想定される。売上高も過去最高の約5億6000万円(平成27年3月期)から、数年後には10億円超の見込み。取引内容は自動車関連が約30%でトップ、次に産業機器や住宅関連部品などが続く。電気・電子分野も底堅い受注を継続している。一方、自社技術を駆使し複数の大学と産学連携事案を進めている。中でも、大手素材メーカーと大学で研究を進めてきた福祉・医療分野の機器開発は、開発ツールの加工から組み立てまで、ものづくりの分野を一貫して担う事業となる。アセンブリー事業で半完成品の納入実績はあるものの完成品の供給は初めてのケースとなり、新たな事業の柱として期待が高まる。下大川専務は「表面に出ることがなかった当社にとって、日の当たる場面へ顔を出すタイミング」と語る。

チャレンジ精神と提案力で
実績を拡大する



専務取締役
下大川 文晴さん

時代の変遷とともにユーザーニーズが多様化する昨今、創業以来培ってきた独自の技術と想像力を生かし、「提案型企業」として成長してきました。とりわけ品質・環境マネジメントシステムの運用から維持、さらには継続的な改善などに力を注ぎ、信頼と安心を与えるものづくりを実践することで顧客満足の追求とともに社会への貢献を方針としています。これからも社員一同、人との出会いや心のつながりを大切に“良いものをつくる”という企業理念を忘れず、ユーザーの要望に応える高品質な製品づくりに全力を尽くします。

主な事業内容

精密プレス加工、金型設計製作、開発設計試作、ユニットアSEMBLY

主な取引先(納入先)

自動車関連、機械設備、家電・弱電機器、OA・照明機器、住宅設備関連など

【住 所】〒571-0042 大阪府門真市深田町18-10
【T E L】06-6906-9100
【F A X】06-6906-9300
【創 業】昭和47年4月 【設 立】昭和62年10月
【資本金】1,000万円 【従業員】35名

<http://www.san-kk.co.jp/>

